

気になったから 勝手に調べたブログ

6月のお題「てるてる坊主」



管理課の村田です。今回は「てるてる坊主」について調べてみました。

「てるてる坊主」は、平安時代に中国から伝わった風習とされています。中国では「掃晴娘（サオチンニャン）」と呼ばれる、ほうきを持った女の子の人形があり、そのほうきで雨雲を掃き、晴天をもたらすと信じられていました。これが日本に伝わり、晴れを願う人々によって飾られるようになったといわれています。

日本において「てるてる坊主」が広まったのは、伝来した平安時代ではなく、江戸時代中期以降とされています。平安時代は貴族中心の社会であり、一般庶民の間でこのような風習が広まることは難しかった可能性があります。一方、江戸時代に入ると農業が生活の中心となり、天候が人々の生活や収穫に大きな影響を与えるようになりました。そのため、晴天を願う「てるてる坊主」が、より身近な存在として親しまれるようになったと考えられています。

また、平安時代には僧侶が天候の回復を祈願する儀式を行っていたという記録もあり、「てるてる坊主」の「坊主」という名前は、そうした風習の名残であるとも言われています。

晴れを願って飾られる「てるてる坊主」ですが、地域によっては逆さに吊るして雨を願う風習も見られます。これには「逆さ坊主」や「ふれふれ坊主」、「ルテルテ坊主」など、ユニークな呼び名が存在しており、地域ごとの工夫が感じられて面白いですね。

「てるてる坊主」を飾るという行為は、単に天候を願うというだけでなく、晴れを願うことで前向きな気持ちになったり、他の人と共通の願いを共有することで人とのつながりを感じたりと、無意識のうちに人間関係や心の豊かさにもつながっていたのかもしれません。

身近な風習にも、こうした深い意味や歴史があることを改めて感じました。

私も小さな頃、遠足や運動会の前日には「明日晴れますように！」と、気合と願いを込めて飾ったものです。

時は流れ中学生になると、雨で休みになる部活に入っていたので、気合と願いを込めて「明日雨降れ！」と逆さ坊主に祈ったかも(^^)；

次回は
「七夕」の予感？